

令和5年度 八代市立高田小学校 校内研修計画

1 研修のねらい

校内研修を通して、教育力の向上や今日的課題に対応できる教師としての資質の向上を図る。

- | | | |
|---------------------|----|--------------------|
| (1) 今日的課題に対応するための研究 | ┌ | テーマ研: 学力充実に関する研究 |
| (2) 教師の授業力の向上に関する研究 | | |
| (3) 今日的課題に対応するための修養 | ── | 現職研修: 人権教育、特別支援教育等 |

2 テーマ研究について

(1) 研究主題

「確かな学力を身につけた児童の育成」
～主体的・対話的で深い学びを通して～

(2) 主題について

「確かな学力」の育成とは、「実際の社会や生活で生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」の3つのバランスのとれた資質・能力を育成することだと考える。新学習指導要領の基本の考え方は子供たちの「生きる力」を育むためには「何を学ぶか」ではなく、「何ができるようになるか」を目指すとしてある。バランスのとれた「確かな学力」を育成するためには、児童自身がこれから先のよりよい自分を想像し、目指す自身像のために「どのように学ぶのか」というについて焦点をあて研究をすすめていく必要がある。そのために、副主題である「主体的」「対話的」「深い学び」というアクティブラーニングの視点からの授業改善に取り組んでいきたいと考える。

(3) 主題設定の理由

ア 今日の課題から

近年、知識・情報・技術をめぐる変化が加速し、Society5.0に代表されるような情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展してきている。これからの子供たちには、このグローバル化の進展や急速な技術革新など、変化の激しい社会に対応する能力を身に付ける必要がある。さらに、これからの社会がどんなに変化し予測困難になっても、自ら学び、考え、未来を切り拓いていく「考える力」も必要である。また、日本では新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行し、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させることが重要である。加えて、GIGAスクール構想の下で生み出されてきた多様な授業実践の工夫を取り入れることによる、新しい学びの在り方へと進化をしていくことも重要視していく必要がある。そのような社会の中で、人間らしい感性を働かせながら多くの人とかかわり、よりよい社会と幸福な人生を自らの手でつくっていく力の重要性はさらに増していこう。このような背景から、児童自身が学ぶ意味を見だし、様々な人との対話を通して学びを深めていくことをめざした本研究は、これからの社会を生きる子どもたちを育てるにあたって意義深いものとする。

イ 本校の教育目標から

本校の学校教育目標は、「夢の実現に向けて、主体的に学び続ける高田の子」である。本研究では、学級経営力の向上と授業改善・授業力向上の視点を通して、主体的に学び深く考えることができる「確かな学力」の育成を目指していく。さらに、互いの考えを理解し伝え合おうとしたり、新たな考えを学んだりする中で「豊かな心」を身につけていくことをねらいとしており、学校教育目標の具現化に寄与できると考える。

ウ 本校の実態から

本校は、昨年度まで一単位時間(あるいは一単元)の授業改善に焦点を当て、めあてとまとめの整合性、対話を通じた深い学びの在り方、振り返りなどの観点から授業づくりについて研究を行ってきた。また、小中で連携して「家庭学習の手引き」を作成し、家庭での学習習慣の確立を目指した取組を進めてきた。その結果、昨年度の県学力調査においては、全ての学年で算数の正答率が全国平均を上回っていたが、国語は学年によって全国平均に至っていない学年がみられ、教科によって学年差が大きいことが課題であった。また、i-checkの結果からは「学習習慣」「規範意識」「充実感と向上心」「成功体験と自信」の項目がどの学年においても低い傾向がみられ、日常の様子からも、時と場に応じた言葉づかいや自分の考えを自信をもって伝える力、自分と相手の考えを関連させる思考力等に課題があった。そこで、本年度は昨年度の課題を改善できるよう「安心できる学級集団づくり」と「すべての児童の学力保証」の視点で、学級経営力の向上と授業改善・授業力向上を重点的に取り組むこととした。

(4) 研究の内容

(ア) 研究の仮説について

仮説1: 学級経営力の向上(学習規律を含めた安心できる学級づくりの視点)

基礎的基本的な学習内容の定着と学習規律の徹底及び、児童一人一人が活かされる学級づくりに取り組むことで、児童が安心して学ぶ環境が整い、確かな学力の向上を支えることができるだろう。

仮説2: 授業改善・授業力向上

児童一人一人が自分の考えをもち、すすんで対話したくなる学習過程の工夫やICT機器を効果的に活用することで、豊かな対話を通じた深い学びが生まれ確かな学力が育まれるだろう

※対話的な深い学びとは・・・子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ、深めること

(イ) 研究の方向性

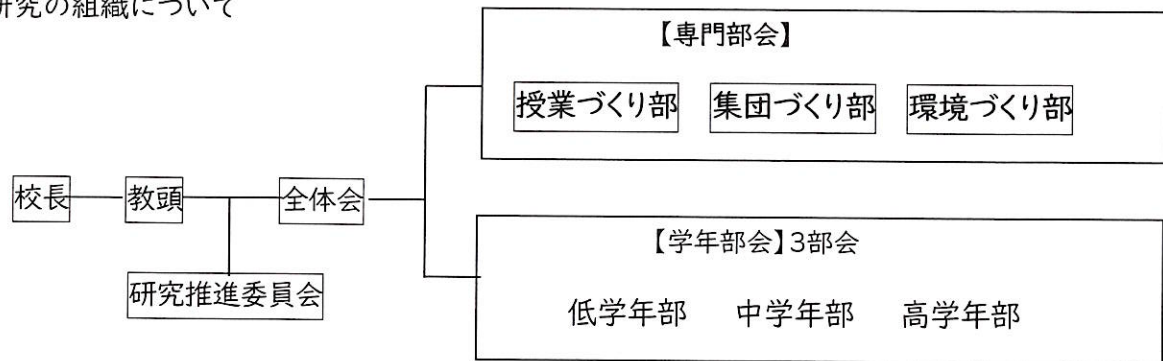
- 児童が自己有用感をもち、互いを認め励まし合える安心できる学級風土づくりに取り組む。
- 落ち着いて学習に向かえるよう、基本的な学習習慣や学習に向かう姿勢(態度)の確立に取り組む。
- 児童一人一人が自分の考えを持ち主体的に学習に参加できるよう、学習への興味・関心を高めるような課題づくりや自分の考えを持つための手立ての工夫に取り組む。
- 「友だちに自分の考えを伝えたい」「友だちの考えを聞いてみたい」と思える課題設定の工夫に取り

組む。また、一人一人の発言を肯定的に受け止める支持的風土のある学級づくりをする。

○適切な言葉で伝える力や聞く力に課題が見られるため、日常的な言葉の指導や学習規律の徹底に全校で共通して取り組む。

○授業におけるねらいを明確にし、それを達成するための効果的な ICT 機器の活用を考え、積極的に授業に取り入れていく。

3 研究の組織について



令和5年度 校内研修計画予定 高田小学校

回	月	日	学校行事等	研修内容	研修領域	担当者
①	4	7	職員会議	今年度の研修の方向性について	テーマ	安田
②		13	職員会議	グランドデザイン具現化ワークショップ	学校づくり	校長
		19	市教科等研			
③		27	職員会議	校内人権教育レポート研修	人権	前崎
④	5	10		研究主題・仮説・年間計画、各部会の計画立案	テーマ	安田
		16	小中合同	人権教育レポート研修	人権	前崎
⑤		17	職員会議	なかよし学級児童理解	特別支援	垣田
	5	24	小中合同研修	小中連携教育研修(中学校)	小中連携	井上
⑥	6	7		心肺蘇生法・救命救急・エピペン研修		中原
⑦		14		学級経営研修	テーマ	大山
		21	集団宿泊・肥後っ子			
⑧		28		大研①事前研	テーマ	
⑨	7	5	職員会議	大研①事後研	テーマ	学年部
⑩		11		情報教育、ICT活用研修	情報	新宮
		20	職員会議			
⑪		21		部会打ち合わせ	テーマ	
夏休みは別途計画						
	8	23	小中合同研修		小中連携	井上
⑫		30		学級経営研修	テーマ	安田
⑬	9	6		中研 事前研	テーマ	学年部
⑭		13		中研 事後研	テーマ	学年部
		20	職員会議			
	10	4	小中合同研修	五中授業研	小中連携	井上
⑮		11		特別支援教育研修	特別支援	垣田
		18	職員会議			
		25	人権Cブロック研			
⑯	11	1		人権教育研修 人権講話等	人権	前崎
⑰		8		学級経営研修		
⑱		22	職員会議	大研②事前研(初任者授業)	テーマ	
		29	小中合同研修	全学級公開授業	小中連携	井上
	12	6	職員会議			
⑲		13		大研②事後研(初任者授業)	テーマ	学年部
⑳		20		学力向上研修		
㉑	1	10		部会打ち合わせ		
㉒		17		大研③事前研(初任者授業)	テーマ	
		24	職員会議			
		26	理科部会県大会	3年から6年の1クラス授業?	教科等	
		31	小中合同研修		小中連携	井上
㉓	2	7		大研③事後研(初任者授業)	テーマ	学年部
㉔		14		県学調分析、年間振り返り	学力向上	井上
		21	職員会議			
㉕		28		人権レポート報告会	人権	前崎
㉖	3	6		人権レポート報告会(代表)	人権	前崎
㉗		13	職員会議	研究の振り返り・まとめと来年度の志向	テーマ	安田

【研究授業について】

- ・大研と中研を低中高で1本ずつ実施する(初任研を兼ねてもよい)
- ・大研と中研以外は全員、小研を実施する。事前研は学年部で行う。
- ・11月29日の小中連携の授業は全員授業公開を行う。構想案は書かない。
(5校時は低学年中心、6校時は高学年中心に自由に参観してもらう)